

評価項目	学校関係者委員からの意見等	意見等に対する今後の手立て
1 学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営計画の組織目標3項目について毎年職員に周知し検討しているとあるが、年度末にでも教職員に対して目標到達したか否かを報告し、目標達成できた、できなかった理由を考察し、来年度に繋げていただきたい。各学科の取り組みについても適正に評価して、更にレベルアップできているのであれば、このような取り組みを毎年継続できていることは素晴らしいと思う。 ・職員による平均評点は4.5であり評価項目中最も高い値を示している。これは、組織目標等が職員間でしっかり共有され、浸透していることの証と考えられる。 ・職員による評価や、学生による評価が適時適切に行われており、その結果を踏まえて次年度の運営計画が立案されている点は高く評価できる。 ・学校全体の中期目標も策定・評価されていて、外部への公表もされており、課題を抽出し真摯に取り組まれており、努力が感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営計画に基づき、各学科の取り組み状況をふまえて中間と年度末に評価を実施し、その結果を全職員に周知している、今後も、引き続き計画に基づき学校運営を行い評価していく。 ・各学科についても目標達成状況をフィードバックし、学校の経営方針を再確認しつつ、改善点を各学科の運営計画に反映できるようにする。
2 学科運営	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科における運営評価が多角的な視点から実に丁寧になされており、結果を踏まえた取り組みを高く評価できる。ただし、評価結果の作成には、相応の労力がかかっていると見受けられるので、分析方法や整理の仕方を工夫されるとよい。 ・各学科ともに丁寧に学科運営を評価している。希望者が減少し合格レベルが低くなると教育の大変さが増すと思われるが、ぜひ一人でも多くの医療専門職を排出してほしい。 ・歯科技工学科は、昨年度からの課題である科目の順序性や段階的な学習について、外部講師の意見も取り入れて改善できたことは高く評価できる。外部の客観的評価を受ける姿勢が今後の学習内容の改善に繋がっていくと思われる。 ・カリキュラムの改正にあたっては、現状分析を踏まえ、ディプロマポリシーに沿った科目の構築が目指されている。 ・課題をクリアにできる術が感じられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より効果的な学習内容と環境を提供するために、現代の学生に合った教育の内容や方法を学ぶ機会を設け、学生の特性に応じた関わり方や教育方法を検討し実施する。 ・学習方法については、演習や学内実習にシミュレーター学習を導入し、臨床での実践をイメージできる授業を計画する。 ・これからの教育に不可欠なICTの活用については、県のデジタル戦略課の支援を受けて積極的に取り組み、実効性のある内容にしていく。
3 入学・卒業対策	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での学生確保は困難なことはよく理解できる。特に看護系学科の志願者が減少している。大学との競合もあるが、より積極的な確保対策が必要と思われる。 ・コロナ禍における看護系大学の志願者動向もみながら、その背景を探る必要があると考えます。これまでも様々な手を打たれており、簡単ではないと十分承知していますが、学校の「強み」をどのようにアピールし、認知度を高めていくか、新たな一手が求められていると思います。 ・学生確保の目標値を前年度入学者数としているが、これでは目標値が減少し、増加も見込めない。目標は定員数とすべきであり、結果を出すことが重要である。 ・志願者数の増加に向け、改善策に挙げられた内容に取り組んでほしい。 ・卒業生交流会についても、積極的な取り組みに期待したい。ナースセンターの職員もアドバイザー等に活用していただくとうい。 ・令和3年度は全ての学科で国家試験の合格率が100%である。様々な課題があるが、実績は高く評価できる。 ・コロナ禍で多くの行事が中止となっているが、内容を工夫して学校をPRしてほしい。大学を目指す普通科高校より、職業科の優秀な学生に学校の存在を知っていただくのはどうか。 ・定員を満たすための一層の努力を要す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のPRとして、R4年度は新たに地域広報誌に学校紹介を掲載した。来年度の入学時アンケートで広報誌の効果について評価する。 ・入学生確保については、コロナ禍により高校訪問や進路ガイダンスへの出席を自粛していたが、現在は進学ガイダンスへの出席を再開している。今後は、感染予防対策を取りながら、高校訪問や進路ガイダンスへの出席を実施していく。また、進路ガイダンスは、主に高校生を対象に行っているが、中学生も対象にしたガイダンスも実施する。 ・大学のホームページと比較して、本校は、見やすさ・華やかさ・紹介方法などに改善が必要と考える。SNS世代に興味を持ってもらえるような内容に更新する。また、在校生から意見を募り、新しい発想も取り入れて学校生活への興味が高まるような内容を工夫していく。 ・本校の強みである、授業料の負担が少ないことや、臨床実践力の習得に力を入れていることを魅力として、引き続きアピールしていく。また、社会人の受け入れ、学校案内を大学や市町村の公共施設に置くなどより積極的なPR方法を検討する。 ・卒業生支援については、来校によるものだけでなく、オンラインを活用した交流も検討する。また、就職先に案内を出し、学校による支援体制をPRする。 ・コロナ禍の実習等の制限による様々な課題や卒業後の早期離職等の問題に対して、在学生の学習支援はもとより、施設や地域と連携、協力して、教育の現状や学生の質、育てたい医療職像を一緒に考える機会を設けることを検討する。

<p>4 学生生活への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な背景の学生が学んでおり、精神面の支援は必要と思われる。カウンセリングはプライバシーが保護され、気軽に受けられることが大事なので、担任や学校関係者を介さずに受けられるとよい。カウンセラーへの繋ぎ方を改善されたい。(一般論として、担任がある程度以上の情報を共有しておくことは必要と思われませんが) ・学生像の多様化がみられる中、教職員が丁寧に対応している様子が伺われる。 ・管理職により行われる、「新生による学校生活を語る会」はよい取組であると思う。 ・アンケートなど実施され、学生の状況等をこまめに確認し対応されていると感じた。継続して学生生活がより良くなるよう支援をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセラーによる「こころの相談室」の申し込みについては、学生が直接メールや電話で行える方法を検討する。また、相談場所についても、相談していることがわからない場所を検討する。 ・学習の個別支援に学生のメンタルヘルスが含まれることが増えている昨今は、家族等による支援も重要となるため、これまで以上に家庭や支援者との連携を図り、より丁寧な対応を行っていく。 ・コロナ禍で学校生活が制限され、学校行事も中止となる状況が続いている。学生が少しでもリフレッシュでき、学校生活を楽しいものとするよう、学生自治会へも働きかけを行い、サークル等の自主的活動を支援する。 ・「新生と語る会」は、管理職が学生の意見を直接聞き、本校の問題や課題を把握できるよい機会である。継続的に実施し、学生生活の支援につなげる。
<p>5 教職員の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の教育に熱心に取り組まれていると思います。国試合格率が100%に近く、毎年継続されているのはその結果である。「教えることは最も良い学習法である」という言葉があるが、指導者の能力は学生への教育によって育つものではないでしょうか。継続して取り組んでいただきたい。 ・コロナ禍で制約の多い中でも、各学科、研修計画に沿いながら教職員の育成が図られていると思います。また、学科間での横断的な授業研究も組まれている。専門ではない授業を参観することにより、「学生目線」で授業を捉えることができる。授業研究の手法として興味深く感じた。 ・他の教員の授業を参観することも勉強になるが、授業に対する学生の評価も大いに参考になる。非常勤で授業をしている他校では、科目終了時に学生へのアンケートがなされ、それに対する自己点検コメントの提出が求められる。参考にされたい。 ・新任教員が学生指導に悩む場面では、当該職員にたいする支援策が講じられ、改善できたことが伺われる。 ・教職員も研修を受講していて、日々努力されていることに頭が下がる。ただ教員に余裕がないと業務を回すことで精一杯になる。適正な教員数かを評価されるとよいのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学科で積極的に授業参観を行い、教授内容・方法を学び各教員の授業実践能力の向上を目指す。また、研究授業や他学科の授業参観を計画し、より効果的な授業が実践できるよう取り組む。 ・臨床からしばらく離れている教員や担当領域が変更になった教員については、臨床現場での実務研修を実施している。研修の受講基準や目的を明確にして、計画的に実施する。 ・外部講師の授業評価の実施について計画する。講師数が多く、集計等業務への負担を生じる可能性がある。現在、ICT委員会にてデータ集計システム導入に取り組んでいることから、教員の業務整理を行いつつ、システム導入後の実施方法を検討していく。 ・教員不足については、教員の魅力をホームページなどで発信し、教員確保につなげる方法を検討する。
<p>6 管理運営・財政</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策や防火訓練は毎年実施し、安全の確保に努めていただきたい。BCP対策のマニュアル作成も必須である。歯科医師会主催の防災対策等の研修会は、外部参加できるものもあるので、利用されるとよい。 ・近年はwebでのコンプライアンス研修なども多くある。、学校でwebexやZOOMのアカウントを取得して有効利用して欲しい。そのための予算確保は必要ではないでしょうか。 ・ハラスメントの防止や対応について「学生便覧」に相応のページを割いて記載されており、学生に安心感を与えていると思う。 ・管理職により行われる「新生による学校生活を語る会」を通じて、学校運営に学生の意見が反映されるしくみが設けられていることは好ましいと考える。 ・限られた財政の中で、工夫して運営されている。学生の意見や要望も聞く機会を設けてある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練については、管轄消防署による防災についての講義とともに立ち合い協力等を受け、シェイクアウト訓練、避難訓練を定期的に行う。 ・災害対策については、教職員が研修会等に積極的に参加する。また、学内や実習先で実際に災害が起こった状況を想定して訓練を行う。必要時は、専門家のアドバイスを得ながら防災への意識、知識を高めていく。 ・学生の防災備品については、学校で整備するものと個人で整備するものを整理し、備える。 ・学校での災害だけでなく、学生の自宅あるいは住居周辺のハザードマップなどを学生自身が確認する機会を設ける。 ・職員の訓練については、令和2年度に学生への安否確認を含めた実働訓練を研修の一環として行った。今後も定期的に研修、訓練を行う。 ・BCP対策として、県では「非常時優先業務」を一覧表にすることにより地震災害、感染症対応などの危機的状況に遭遇した場合に継続する業務等を整理している。 ・ICT活用による授業に取り組んでおり、ZOOM等のアカウント取得等、ICT機器類については、規定の予算で整備できないか検討中である。令和2年度には、同窓会からのタブレット保管庫の寄付を受けた。

<p>7 施設設備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県歯科医師会では歯科関連の多くの要望を県庁に提出しており、衛生専門学校も要望している。不足のもの、更新すべきものがあれば情報提供いただけるとよい。 ・十分な予算規模とは言えないが、可能な限り、学習内容の理解を一層促すための機器や、あるいは就職先等において実際に使用される機器に対応できるよう新たな備品の購入等がなされていると思う。 ・新たに整備されたことにより、図書館の利便性が高まるとともに、図書の貸出数も増加したことは高く評価できると思います。今後は蔵書管理や貸出業務等の電算化が図られるとよいと思う。 ・古い校舎ではあるが、限られた予算の中で、改修されている。コロナ禍で換気等必要であるためか見学時には廊下の暑さが気になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策としても不用品の整理をして、必要なものを整備する。また、棚などの耐震対策も講じる。 ・Wi-Fi環境は、ICT教育の最低限の環境整備ができた状態である。具体的な授業内容や教育支援内容を検討し、整備の必要なものを検討する。 ・県の財政状況から予算の増額は難しい。その中で、補正予算などを活用し、必要な物品の購入を行っている。 ・蔵書管理については令和5年度にシステム化への予算要求を行う予定である。 ・校舎そのものが老朽化（築54年）している。廊下を含めた全館の空調は整備されていないが、生徒が長時間過ごす教室や実習室の空調を既定経費のなかで適切に使用する。
<p>8 社会貢献・地域活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の雰囲気や行事などをSNSを利用して発信していくスタッフが必要ではないでしょうか。学生はTwitterやInstagram、教務は新聞や各高校へのニュースレターのような配布もよいので、多く広報して認知度をあげてもらいたいような情報発信が必要だと思う。 ・岐阜県看護協会も地域でのイベントを活用し、看護について広報活動を進めていく予定です。お互い情報共有しながら、看護学校の周知も含めて活動を行っていくとよい。 ・地域活動は、このコロナ禍にあって出かける側、受け入れる側双方の問題があって、なかなか思うように進められないことと拝察する。そうした中で、広報活動の一層の充実に努めていることが伺われる。 ・現在のHPは、個人的には知りたい情報に辿り着きやすく、使い勝手がよいと感じられた。 ・コロナ禍においては、地域との交流など行にくいところですが、ぜひ地域の方々に学校の良い点をアピールしてほしい。依然として、「勉強できないと入れない・厳しい・怖い」のイメージが残っているのを良い方へ変えられると良いと思う。 ・地域活動の見える化が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のイメージがしやすいよう、ホームページなどを見直し、動画や画像を載せる努力をしている。R4年度の行事紹介の画像等は、例年に比べ多く掲載できた。引き続き工夫していく。 ・当校の魅力を様々なSNSを使って発信する方法を検討する。 ・歯科衛生学科においては、地域活動の1つとして、施設において歯科保健教育なども行い貢献していきたいと考えている。 ・学校、職業を周知するために、近隣小学校と連携し出前授業を実施している。引き続き実施していく。